

学位論文審査の要旨

	瀬尾 知子【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成23年度生】 (平成25年9月30日 単位修得退学)	要 旨
学位申請者		<p>本論文は、まず母親の養育態度や食意識といった母親による要因、園での食事場面における保育士の働きかけの実態調査を行い、母親の属性や園の形態による相違を明らかにした。</p> <p>ついで、子どもの食事の意義理解に、母親の食意識や養育態度が与える影響食事の形態による子どもの食事の意義理解の差を、統計的に検証した。</p> <p>さらに食育において、他人と一緒に食事をする共食の意義が強調されるが共食が子どもの食事の意義理解に与える影響と母親の食意識や園の形態が、食事の社会的意義についての理解に与える影響について詳細な分析を加えている。こうした系統的な実態調査に基づき、瀬尾知子氏は、幼児期の食事経験の違いは食事の意義理解の発達過程に影響を与えているが、子どもの発達に応じて理解されるものと、食事経験によって理解されるものがあること、幼児期の食事経験は食事に関するより詳細な知識の獲得に寄与していること、食事の意義は、社会的情報の有無や質によって影響を受けることなく、食事と成長の関連、食事を他者と食べることは好ましいことであるといった食事の基本的な価値づけは早期に発達すること、などを明らかにした。</p> <p>第一回審査会は平成27年11月20日に行われたが、論文の構成や研究概念図、さらに変数としての家庭の経済状態（SES）の位置づけなどについて、審査委員から修正意見が提出された。平成28年1月28日の第2回審査委員会では、第一回審査会で指摘された点が十分に修正され、論文としての要旨が鮮明になったという評価を受け、公開審査会を前提としたスライドによるプレゼンテーション（第3回審査会 2月17日）をへて、平成28年2月24日に公開審査会が行われた。</p> <p>公開審査会では、プレゼンテーションは分かりやすく構成され、参加者からの多数の質問に対する対応も明確であると講評され、審査委員全員が、瀬尾知子氏が博士（生活科学）（Ph.D. in Developmental Psychology）を授与するにふさわしい能力を有すると判断した。</p>
論文題目	幼児の食事の意義理解の発達過程 -幼児期の食事経験の違いによる検討-	
審査委員	(主査) 教授 榊原 洋一	
	教授 小玉 亮子	
	准教授 刑部 育子	
	教授 浜野 隆	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>○ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	